

安徽省植樹交流ツアーを終えて

西尾 誠

2007年3月21日21時20分、僕たちを乗せた飛行機が、今回のたびの舞台となる安徽省合肥の合肥空港に降り立った。今回のツアーは、安岡さんに誘われたもので、安岡さんは昨秋よさこい踊りでグアム遠征に行ったときの高知県チームの代表の方で、このツアーにも毎年参加しているそうだ。また、僕は環境問題の解決に向けた取り組みや活動に興味があり、将来これらに関わる職業に就きたいと思っていて、そのために世界各地の環境問題の現状を自分の目で見ておきたいという考えもあり今回の参加を決めた。

初日は、移動に多くの時間を費やし一日を終えた。ホテルでは、高知大学農学部森林科学科一回生の五藤君と同じ部屋で、今回のツアーではずっと一緒の部屋になつた。五藤君のほかにも彼の友人二人が参加していて、彼らとともに行動することが多かった。

二日目、朝食をとると、最初の目的である植樹のために合肥の南にある池州に向かった。池州に向かうバスからは、高速道路の両側に広がり何十キロも続く広大で綺麗な菜の花畑を見ることができた。目的地に着くと半分はげた丘があった。今回植樹する場所である。すでに一緒に植樹する現地の貴池第二中学の生徒たちが待っていた。少し長いセレモニーを終えると、日本人一人に中国の学生一～二人が付いて一緒に植樹を始めた。僕は初め男の子一人と植樹をした。とても明るくてよく話しかけてきてくれたが、英語での会話が苦手なため苦労した。一時間ほど植樹をすると昼食に時間になったが、彼の名前はこのとき初めて聞くことができた。張というそうだ。昼食後は一人増えて二人になり、前代表の中森さんに直接植樹の指導を受けながら、数種類の木を植えた。予定より早く進んだようで、次の日に予定していた場所まで植えることになった。植樹の後、池州市内のホテルで、一緒に植樹をした学生たちとの交流会があった。お互いに歌や踊りなどを披露したり、プレゼントをもらったりして楽しい時間を過ごした。

三日目、午前中に残りの植樹を済ますと、安慶を経由して合肥へ帰った。安慶には古い寺院があり、中央にあった塔に登ったが、上に行くほど柵が低くなり、最上階ではひざの高さくらいまでしか柵がなく、すごく腰が弓けた状態で写真を撮った。

四日目、この日は二組に分かれ合肥の林業学校と淮南の小中学校を訪問した。僕は五藤君らと一緒に合肥の林業学校を訪問し、同行の学生と交流した。記念植樹をしたあと、午前中は学生同士で自由に交流したが、一人で何人もの学生に囲まれている聞こえたりして大変だった。その後それぞれ歌や踊りなどの出し物をした。僕はよさこい鳴子踊りをみんなの前で踊った。多くの学生が興味を持って一緒に踊ってくれたのはすごく嬉しかった。昼食後バスケットボールをしたが、林業学校の学生たちは普段からバスケットボールをやっているらしく、普段運動していない僕たちでは歯が立たなかった。疲れて汗だくになっていると、隣の学生が何か飲むかと聞くのでお願いしたが、冷たいものが出てくるという期待に反して熱いお湯を持ってきてくれた。日本ならツツコミが入るところだが、これも中国の文化なのだと思います。その後、林業についての座談会があったが、林業の知識のない僕は話についていけずに終わった。

五日目、早朝にホテルを出ると上海へ移動するため、合肥空港へ向かった。しかしこの日は十メートル先が見えないほどの濃霧で、僕たちが乗る予定の飛行機が着陸できないでいた。不安を抱きつつ待っていたが着陸できそうになく、結局別の便の空席で上海に行った。昼食後は二組に分かれての上海観光で、僕は豫園や東方明珠を回るコースだった。東方明珠の展望フロアからの眺めは霧のために期待はずれなものだったが、芸術館のカラフルな瑠璃細工や刺繍絵画はとても美しかった。

最終日は、上海浦東空港で、買えていなかったパングのぬいぐるみと数種類のお茶を買って帰国の途に就いた。

このツアーを通じて感じたことは、海外での自身のコミュニケーション能力の不足だった。四年のときに習った中国語はまったく覚えておらず、得意なつもりだった英語もまともに喋れ

なかったため、会話にならなくて困ることが多かった。次に行くときにはもつと話せるようになっておきたい。また、環境問題に関しては、いたるところで道路工事をしていたり、次々と新しいビルが建設されていて、自然が壊されている印象を受けた。また、郊外のあまり整備されていない道路脇にゴミが捨てられていたりしたのは悲しかった。来年行くことができれば中国の学生たちと環境問題への関心や意識などいろいろ聞いて、今後の活動に役立てられるようにしたいと思う。